

図表 『石川県創造的復興プラン（仮称）』案の概要（2024年5月20日公表）

骨子案には無かった成案の特徴	
<p>① 序章「能登らしさ」の書き起こし。能登の特徴整理と、「創造的復興」と全県対象とするの根拠付「壮大な自然が織りなす類稀な絶景と豊かな生命」「自然と共生する人々の、しなやかで美しい暮らしとなりわい」「人々が心を激しく燃やし、地域が一つになる祭り」「おたがいのことを思いやり支えあう、人のつながり」「能登はただの一地方ではありません」</p> <p>② 第1章で被災実態を詳述</p> <p>③ 補論として、被災により浮き彫りにされた地域課題を記載し、4月に被災6市町と金沢市で開催された「のと未来トーク」やオンラインでの意見聴取、2月～3月にかけて行なった事業者や支援団体アンケート等で出された主な意見を、20ページにわたって掲載</p>	
第2章 創造的復興に向けて	
創造的復興の必要性	人口減少➡元に戻しても厳しいまま＝未来志向の創造的復興が必要
復興スローガン	能登が示す、ふるさとの未来（Noto, the future of the country）
基本姿勢	<p>(1) 地域が考える地域の未来を尊重する、(2) あらゆる主体が連携して復興に取り組む、(3) 若者や現役世代の声を十分に反映する、(4) 女性や外国人、障害のある人など多様な視点を積極的に取り入れる、(5) 多様な形で地域のことに携わる関係人口を活かす、(6) ありたい社会をもとに持続可能なインフラを考える、(7) 能登全体を俯瞰し互いの地域が協力していく、(8) 能登のブランド価値を外の目線で捉えなおす、(9) デジタル技術による可能性の広がり挑戦する、(10) 調査・統計や地図情報などのデータを踏まえる、(11) 平時の延長で有事に備える、(12) 積極的に情報を発信する</p>
第3章 プランの位置づけ、対象期間、対象地域	
位置付け：創造的復興の羅針盤、期間：R14年度末まで（9年間）（県成長戦略の目標年次）／短期（R7）、中期（R10）、長期（R14）、対象地域：県内全域	
第4章 創造的復興に向けた取り組み	
施策体系	<p>○教訓を踏まえた災害に強い地域づくり、○能登の特色ある生業（なりわい）の再建、○暮らしとコミュニティの再建、○誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり➡重要施策を『創造的復興リーディングプロジェクト』に</p>
創造的復興リーディングプロジェクト（骨子案との関係）	
1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大（継承）	二拠点居住、連携復興センター、金沢・能登間移動高速化、和倉温泉・輪島朝市等まちづくり、農林水産業ボランティア
2 能登サテライトキャンパス構想の推進（表現変更）	県内外学生受け入れ、高等教育機関と復興連携、防災・復興連携機関、学生の祭り参加
3 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり（新規）	ICT活用学習環境、能登地域高校の魅力ある学校づくり、高校での創造的復興教育。健やかな子育て環境
4 新たな視点に立ったインフラの強靱化（新規）	能登半島絶景海道（道路の強靱化と里山里海との調和）
5 自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進（新規）	オフグリッド集落（自立分散型「点でまかなうインフラ」）、持続可能な上下水道インフラ（小規模分散型水循環システム）、住宅等での自立・分散型エネルギー活用、グリーンドライブ推進
6 のと里山空港の拠点機能の強化（継承）	航空交流拠点機能強化、防災拠点機能強化
7 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通（新設）	住民の生活の足+ののと里山空港・のと鉄道からの二次交通
8 奥能登版デジタルライフラインの構築（新設）	モビリティ・ハブ、ドローン航路、マイナンバーカード活用
9 能登の「祭り」の再興（新設）	震災を乗り越え、地域コミュニティ再建に貢献
10 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み（表現変更）	ジオパークなど震災遺構の地域資源化、デジタルアーカイブ
11 能登半島国定公園のり・デザイン（新規）	能登地域の生物多様性の適切な保全・利活用、「のとSDGsトレイル（仮称）」
12 トキが舞う能登の実現（新規）	トキの放鳥・定着に向けた餌場・営巣環境、トキとの共生に向けた社会環境、トキをシンボルとした地域活性化
13 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進（新規）	「産学官石川復興プロジェクト会議（仮称）」設置

出典『石川県創造的復興プラン（仮称）』案をもとに、筆者作成。